

練学歯だより

No29

練馬区学校歯科医会広報

<http://www.nerigakushi.tokyo>

2024年3月発行

目 次

- 
- p.1 ご挨拶 練馬区学校歯科医会会长 草柳 英二
- p.2 第74回関東甲信越静学校保健大会に参加して 南 誠二
- p.3 第87回全国学校歯科保健研究大会に参加して 西村 滋美
草柳 英二
- p.5 令和5年度全国学校保健・安全研究大会に参加して 石井 伸行
草柳 英二
- p.6 第73回全国学校歯科医協議会に参加して 草柳 英二
金田 和彦
- p.8 令和5年度児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会 広報担当理事 羅 均
- p.9 練馬区学校歯科医会会員研修 安井利一先生「現在の学校歯科保健活動について」に参加して 中山 康成
- p.10 第42回練馬区学校保健大会に参加して 学術委員会委員長 大川内 誠
- p.12 歯と口の健康推進事業における小・中学校への歯ブラシ贈呈 総務理事 浅見 律
- p.13 学校紹介
- p.18 新入会員の声



会長挨拶

練馬区学校歯科医会会长 草柳 英二

会員の方々には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は学校歯科保健活動に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

おかげさまを持ちまして、本年も春の歯科健康診断から秋の就学時健康診断まで無事終了することができました。本会の年間事業も一部を除いてすべて遂行できました、感謝申し上げます。

私たちは、「COVID-19」このワードを忘れる事はないでしょう。世界史及び日本史の一項目として永遠に刻み込まれることとなりました。令和元年暮れに中国・武漢で発生した「新型コロナウイルス感染症」は、世界中を渦に巻き込み瞬く間に多数の感染者数及び多くの死者を出し、脅威のウイルス感染症となりました。世界および日本全国の歯科医師及び歯科医師会も大きな影響を受け、感染症対策にあらゆる手段を捻出し、日々対応に追われ大混乱を生じました。令和3年頃にはようやく感染対策も浸透し、徐々に歯科保健事業活動も遂行されてきました。しかしながら、新生活様式により幾多の弊害も表面化しております。練馬区内及び都内でも児童虐待やネグレクト等の件数もコロナ禍での増加傾向がみられております。令和5年5月8日からCOVID-19の対応が2類から5類への移行され、学校における対応策や生活様式にも変化が見られております。学校保健安全法施行規則の一部改正の通知も出されました。現在でも新型コロナウイルス感染症の感染が浸透していると同時に、インフルエンザが感染増加傾向にあります。私たちは、つねに医療従事者としての感染症の安全対策を講じなければなりません。残念ながら新型コロナウイルス感染症は、収束・終息の道は、まだまだ見えないようです。

練馬区学校歯科医会は、昭和30年に練馬区歯科医師会から独立し、練馬区と本会が協力し「むし歯半減運動五カ年計画」が設立され、多くの学校歯科保健事業活動がスタートし実施されました。長い歴史を誇る練馬区学校歯科医会は、児童・生徒の歯と口の健康推進事業の発展と充実に尽力を注ぎ大きな成果をあげて参りました。平成27年より本会は、給食後の歯みがきの遂行と必要性およびフッ化物洗口法の推奨を唱えて参りました。3年間のコロナ禍を経て令和5年12月14日の第42回練馬区学校保健大会において研究発表「練馬区児童生徒の学校歯科保健活動について」と題して①給食後の歯みがきの推奨②新型コロナウイルス感染症および感染症対策③むし歯予防としてのフッ化物応用についての発表を行いました。私たちは、近い将来の実績に繋ぐよう願い、今迄の経緯を継承してゆきたいと存じます。先輩諸氏の足跡を、私たちは由緒正しい練馬区学校歯科会の誇りと伝統として今後も継承してゆく所存であります。

最後に練馬区学校歯科医会は、練馬区歯科医師会および練馬区歯科医師連盟と共に練馬区の児童・生徒の歯と口の健康推進のために学校歯科保健活動を充実し邁進してゆきたいと思います。

第74回関東甲信越静学校保健大会に参加して

大泉学園小学校学校歯科医 南 誠二

令和5年8月3日(木)第74回関東甲信越静学校保健大会がさいたま市で開催されました。午前中の開会式や特別講演(Jリーグ第5代チェアマン村井満氏)、午後からの班別研究協議会にも参加したかったのですが、所用のため私は午後4時15分からの歯科職域部会から参加しました。主催者(埼玉県歯科医師会)、埼玉県知事(代読)、日本学校歯科医会会长(代読)の挨拶の後、講演会に移り、講師は東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野教授の相田潤先生、演題は「世界で最も多い病気!?再注目される歯科疾患の重要性」でした。目からうろこが落ちたような興味深いお話をしました。要約すると、『一般的にはう蝕は減ったというイメージがあるが、もともと有病率が高いので、多少減ったところで他の疾病と比較すると非常に多い。確かに3歳から12歳児のう蝕は経年に減少しているが、今でも小学校の主な疾病・異常等の罹患率は近視よりも多く1位である。そして、未だ、15歳~24歳のう蝕有病者率は40~80%と高値で、高齢者では増えている。2022年のWHOのレポートでも、歯科疾患があらゆる疾患の中で断トツ1位であり、世界保健総会では、口腔疾患の多くは、心血管疾患、糖尿病、癌、肺炎、肥満、早産などと関連しているという決議がなされた。このように口腔の健康は健康寿命に影響しているため、子供のころからの対策が重要だが、そこには健康格差が存在する。たとえば、両親の学歴が大卒以上よりも高卒の方が子供たちのう蝕治療経験が多くなるし、所得や地域によっても健康格差が起きている。これらは自己責任で解決が困難な問題であるが、う蝕の予防に関しては、フッ化物応用が地域格差是正のひとつの手段である。実際に、集団フッ化物洗口を普及した秋田県、佐賀県、新潟県はDMFTの都道府県順位が劇的に改善している。

まとめとして、①歯科疾患は世界で最も多い疾患②健康格差のため家庭の自己責任だけで予防は困難③コロナ禍で経済的に苦しい人々が増加④将来の全身の健康に影響の可能性。』というスライドで講演は終了しました。

私は、この講演を聞いて、う蝕をはじめとする歯科疾患が健康寿命に影響しており、幼少期からのアプローチが大事だが、そこには健康格差がある。それを認識して、学校保健活動や日々の診療にあたらなければならないと思いました。

その後、懇親会が開催されました。次年度は平成6年8月1日に東京都で開催される予定です。

第87回全国学校歯科保健研究大会に参加して

学術担当理事 西村 滋美

今年度の第87回全国学校歯科保健研究大会は、10月19日大阪国際交流センターにて開催され、日帰り参加をして参りました。今年度も昨年の山梨県甲府での開催と同じように、会場とオンラインでのハイブリッド開催となりました。

メイン会場では教育講演、シンポジウムが、ポスター発表もすべてハイブリッド開催となり、領域別研究協議会はライブ配信終了後、さらに1ヶ月間オンデマンド配信されました。

ポスター展示の会場では、たくさんの発表があり、質疑応答も活発に行われていました。来年開催予定の大坂万博の公式キャラクター(ちょっと微妙な風体)“ミヤクミヤク”も来ていましたが、大阪府の公式ゆるキャラの“もずやん”的方が断然人気がありました。

シンポジウムでは「ICTを活用した学校歯科保健」について、文科省、学校保健会、養護教諭、学校歯科医からの発表があり、それぞれの立場での活動状況について報告され、活発な討議がされました。マイナンバーカードの活用もはじまり、個人のパーソナルヘルスレコード(PHR)の記録を保存、導入することで、ビッグデータが全身の健康づくりや将来医療に活用されるようになることについては、まだまだこれからですが、時代の流れで、そのような方向を国が目指していることも、少し理解できました。

来年は10月17日(木)長崎で開催です。会員の先生方、ぜひご参加ください。



会場風景



会場風景



大阪万博公式キャラクター
“ミヤクミヤク”

第87回全国学校歯科保健研究大会(大阪府)

石神井西小学校学校歯科医 草柳 英二

第87回全国学校歯科保健研究大会は、令和5年10月19日(木)に大阪国際交流センターにて開催されました。

主題は、「口腔から全身の健康づくりを目指して—いただきます人生100年歯とともにー」

特別講演、「江戸時代の医師修業」講師に上田秀人先生の講演がありました。シンポジウムでは、「ICTを活用した学校歯科保健」の演題で座長には、斎藤秀子日本学校歯科医会副会長なされました。

基調講演	松崎 美枝	文部科学省初等中等教育局調査官
シンポジスト	弓倉 整	公益社団法人日本学校保健会専務理事
	大橋あげ葉	可児市立土田小学校養護教諭
	佐藤 昌	一般社団法人宮城県歯科医師会学校歯科部会副部長

ICTを活用することは、常日頃から必要性を感じており、練馬区学校歯科医会でも時おり理事の先生方と学校歯科健康診断についてのデータベース化についての意見交換をしておりましたので、とても興味がありしっかりと拝聴しました。

この大会の会場で、学校歯科健康診断に必要な情報で現在他地区で使用されている「あすなろ建診」についての資料を持ち帰り検討して、教育委員会開催の「児童生徒の歯と口の健康推進事業委員会」で紹介・説明をいたしました。とても必要なICT活用事項ですので、近い将来に採用されることを願います。

私たちに必要な「領域別研究協議会」は、オンデマンド配信となりましたが、コロナ禍以前のように会場にて参加できればと強く感じました。



大阪国際交流センターにて

令和5年度全国学校保健・安全研究大会に参加して

都立石神井高等学校学校歯科医 石井 伸行

令和5年度全国学校保健・安全研究大会の開催方法は、収集参加、ライブ配信参加、オンデマンド参加と3通りの参加方法がありました。昨年度大会と同様に私はオンデマンドで参加いたしました。聞き逃したところを何度も見直せる、聞き直せる、手が空いた時にこちらの都合の良い時間に受講できるというメリットがあります。反面、会場参加の雰囲気は伝わってこないのがただ一つの残念なことでした。

私は「第5課題 歯・口の健康づくり生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方」を視聴しました。講師は明海大学名誉教授、安井利一先生で ①基本的生活習慣の確立 ②自律的・自立的実践力の育成 ③自己から見た虫歯と歯肉炎の講義を受講できました。この課題の中での研究発表は3件ありました。3件とも優れた観察力とまとめ方で興味のある内容で、それについて少し触れてみたいと思います。

初めに、大阪府立なにわ高等支援学校保健主事寺井基起先生の発表で演題は「歯科健康診断の効果的な実施と結果等を活用した健康教育の実施について」でした。生徒への歯科的指導、ヘルスクリーンチェックシートの活用など保健委員会が中心となり学校歯科医へのインタビューや習慣的なブラッシングができるようにポスター作り、ブラッシング指導など生徒一人ひとりの健康への意識向上につながったことなどの成果が発表されました。

続いて、茨城県東茨城郡大洗町立南中学校養護教諭追田祐子先生の「自らの健康に気付き、考え、実践できる児童生徒の育成」という演題でした。口腔の衛生状態や歯肉炎など、小中の養護教諭と栄養教諭が連携して歯科保健教育、食育を関連付けて実践していました。保護者や地域との連携も進めていく中で生活習慣の改善や歯磨きへの取り組み姿勢の向上に変化が見られています。

3題めは兵庫県姫路市立御国野小学校養護教諭黒田真未先生の「命の入り口『歯と口』の健康を通して豊かな心とたくましい体を育む」を演題とし、学年ごとの段階的な歯科保健指導とともに委員会活動や保健だより、学校だよりでの周知とともに歯磨きカレンダー元気アップカードなどによる保護者への働きかけを通して家庭と連携した活動を展開していました。保護者との連携協議により多様な取り組みの中で虫歯罹患率の減少という目に見える成果をあげ、同時に児童や保護者の意識啓発にも成果が得られています。

令和5年度全国学校保健・安全研究大会に参加して(神戸)

石神井西小学校学校歯科医 草柳 英二

令和5年度全国学校保健・安全研究大会は、10月26(木)・27日(金)に兵庫県神戸市神戸文化ホール・神戸市立中央体育館にて開催されました。

主題は、「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の邁進～自ら健康課題の解決に取り組み、未来を切り拓く子供の育成～」

記念講演として演題、「ネット・ゲーム依存の成り立ちと対応」講師は、神戸大学大学院医学研究科デジタル精神医学部門特命教授、曾根一郎先生の講演がありました。課題別研究協議会にては、第5課題として「歯・口の健康づくり」において「生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方」について、明海大学名誉教授、安井利一先生が講師としてご講演されましたので拝聴しました。

研究発表者として、寺井基起保健主事・追田裕子養護教諭・黒田真未養護教諭の3名が発表された。学校保健活動の重要性と位置付け、特に健康管理の基盤・育成・教育等の内容ありました。



会場入口にて草柳英二会員

第73回全国学校歯科医協議会

石神井西小学校学校歯科医 草柳 英二

第73回全国学校歯科医協議会は、令和5年10月26日(木)に兵庫県歯科医師会館にて開催されました。

基調講演、「ヤングケアラーの現状と学校・歯科医療ができること」

講師、大阪公立大学現代システム科学研究科准教授、濱島淑恵先生

「ヤングケアラー」とは家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子供。18歳以上の場合もある、と定義されることのようあります。

現状を抱える問題や学校での気づきの大切さおよびヤングケアラーと歯科医療との接点についての詳細な情報を拝聴しました。私にとっては聞きなれないワードであり、とても興味深い内容で印象に残りました。

第73回全国学校歯科医協議会に参加して

泉新小学校学校歯科医 金田 和彦

令和5年10月26日心地良い秋晴れの下表題の大会が兵庫県神戸市において開催されました。

初日は開会式・表彰式に参加後、神戸文化ホールから兵庫県歯科医師会館に場所を移動し全国学校歯科医協議会に参加いたしました。開会式の後「ヤングケアラー」について理解を深めるシンポジウムが開かれ、大阪公立大学濱淑恵准教授による基調講演が行われました。ヤングケアラーとは、「家族にケアをする人がいる場合に大人が担うようなケア責任を引き受け家事や家族の世話、介護、感情面のサポートを行っている18歳未満の子供」と日本では定義されています。ヤングケアラーの存在は約5~6%で、1クラスに2名ほど存在することになります。ケアの内容は様々で、負担が大きいものからさほどないもの、毎日ケアしているケースが約半数を占めています。自分のための時間が確保できないため、遅刻・欠席・成績不振等学校生活への影響、精神的・肉体的影響、友人関係への影響を抱えることになります。口腔内の状況を診ればDVやネグレクトの疑いが示唆されたように、ヤングケアラーの口腔内の状況も思わしくないことが少なくなため歯科医師からの声掛けのきっかけになります。ただし、程よい距離感を保つことが大切。

基調講演の後は、兵庫県歯科医師橋本芳紀会長がコーディネーター、日本学校歯科医会柘植紳平会長、兵庫県立明石高校北中睦雄校長、濱島淑恵准教授、NPO法人会員山中葉月さんがパネラーとなりディスカッションが行われました。

我々歯科医師が「もしかしたら・・・」という視点で、感度の良いアンテナを張ることが大切であること。歯科医療現場では家族の付き添いに若い人がいれば気にして声掛けをしてみること。当事者への口腔ケア指導が話を聞くための良いきっかけとなるかもしれない。ヤングケアラーの予備知識があれば具体的で早い対応ができる。先ず気付きそして繋いでゆくことが大切であること等が示されました。

今回の研修を通じて「ヤングケアラー」や「歯・口の健康づくり」の様々な取り組み、活動について知識を得られたことは大変貴重な体験でした。派遣していただいた練馬区学校歯科医会に対して改めて感謝申し上げます。

令和5年度 児童生徒の歯と口の健康事業推進委員会

令和5年11月9日 練馬区役所会議室にて

広報担当理事 羅 均

この日表題の会議が4年ぶりに開催されました。出席は練馬区学校歯科医会から草柳会長・西専務・浅見総務担当理事・西村学術担当理事・羅(筆者)広報担当の5名、小学校保健研究部から6名、(中学校)区中研養護部会より4名、区役所健康推進課より衛生士代表2名、区事務局3名です。

草柳会長、区保健給食課・唐沢課長の挨拶の後、委員紹介をし、本日の議題に入りました。最初に小学校保健研究部と区中研養護部会から、令和4年度の歯と口の健康事業実績調査報告と令和5年度実績調査の説明があり、次に健康推進課衛生士代表から令和5年度歯磨き巡回指導中間報告・令和6年度歯磨き巡回指導の実施に関するお願い・令和6年度歯磨き巡回指導日程調整決定までの流れ・歯と口の健康に関する图画ポスターコンクール募集の案内の説明がありました。

続いて練馬区学校歯科医会から活動報告および要望で西専務より給食後の歯磨きの必要性と歯ブラシ配布、ミル菌の使用方法について。西村学術担当理事より、フッ化物の応用について。浅見総務より、健康診断書のデータベース化の必要性。羅広報担当より、幼稚園から高校までの新型コロナおよび感染症対策と消毒薬の配布についてそれぞれの報告と要望の説明が行われました。

本事業の、練馬区学校歯科医会と学校現場と行政の関わった、児童生徒の歯と口の健康に対する協議という目的に則った会議となりました。



委員会会場



練馬区学校歯科医会会員研修会

安井利一先生『現在の学校歯科保健活動について』に参加して

八坂中学校学校歯科医 中山 康成

令和5年11月16日、練馬区歯科医師会館に明海大学歯学部前学長の安井利一先生をお招きして『現在の学校歯科保健活動について』を、ご講演していただきました。久しぶりに拝見する懐かしいお姿でしたが、助教授をされていたころと少しも変わらずカッコよく、すらっとされていたので驚きました。私が学生の頃、安井先生は口腔衛生学講座を受け持っておられました。臨床学とは離れている分野のせいか、最も眠くなりがちな講座のはずなのですが、安井先生はいつも上品なユーモアを交えて、面白く分かりやすい講義をされていたので、眠くなつたことが一度もありませんでした。なので、学生からの人気も大変高かったです。「私が健診している幼稚園で園児たちに、どうして虫歯になるのでしょうか?」と質問すると、ステファンカーブだから~と答えが返ってきますよ。」と幼稚園児に対しても熱心に教育されていた姿勢が強く印象に残っています。ちなみに当時の本試験問題は「学校保健の領域と構造について述べよ」「Leavell & Clark の疾病予防の3相と予防体系について述べよ」「疫学について定義、目的、研究方法を述べよ」「衛生教育の意義と目的について記せ」などでした。

今回の講演では、学校歯科保健活動、学習指導要領改訂の方向性、第三次から第四次食育推進基本計画、就学時の健康診断マニュアルの改訂、学校等における児童虐待への対応、改正児童虐待防止法、改正児童福祉法などと、多岐にわたり、詳しく解説していただきました。どれも興味深い内容であり、時間が許せばもっとお話しにいただきたかったです。特に参考になったのは、自分の健康に対する考え方を育成できる機会があるのは小中学生の時だけであり、そのときに健康づくりについて正しく学び、理解が出来たかによって、その後の健康管理意識に大きく影響していくことです。学びの手段として最も有効な教育方法が食育であり、栄養バランスの整った食事をゆっくりよく噛んで食べることの重要さ、う蝕にならないようにするにはどうすればよいか、歯と口の健康状態を向上するには何が必要かを学んでいくことが大事であるということでした。児童、生徒たちが、自ら考えて学ぼうとする姿勢を身に付け、生きる力をはぐくみ、生涯にわたり健康で安全な生活を実現できるための教育や手助けが出来るのは、我々歯科医師しかいないと力説していただきました。

小中学校における学校歯科医が、歯科健診以上に重要な役割を担っていることが分かり、お陰様で多少なりとも自分の仕事に誇りを持つことができました。ご講演ありがとうございました。



第42回練馬区学校保健大会に参加して

学術委員会委員長 大川内 誠

令和5年度練馬区学校保健大会が令和5年12月14日(木)練馬区立生涯学習センターに於いて開催され、「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大における学校歯科健康診断についての養護教諭対象アンケート調査」を元に、練馬区学校歯科医会の保健活動についてお話をさせて頂きました。内容といたしましては、6つございました。

1つ目に、練馬区学校歯科医会では、平成27年以降、長年にわたり、給食後の歯みがきを推奨して参りましたが、残念ながら、なかなか実施校の数が増えていないということです。

コロナ禍においては、飛沫感染の懸念がありましたが、歯みがきやフッ化物洗口による飛沫感染でのクラスターの報告は、現在のところ無いようです。逆に飛沫感染はほとんど無いので、感染予防効果を高めるために、口腔内の乾燥を防ぐ「うがい」を優先すべきである、という見解がございますので、給食後の歯みがきで、感染予防、歯肉炎予防を行っていただきたいと思います。

給食後の歯みがきスタイルとして、日本学校歯科医会よりパンフレットを作成し、ダウンロードできますので、ご利用ください。

2つ目に、私達は、給食後の歯みがきを推奨する為に、何校かずつではあります
が歯ブラシの配布を行っております。

本年度も、小学校へ5校、中学校へ4校の3,000本あまりを教育委員会を通して、各学校へ配布しております。

3つ目に、かなり浸透してきたのではないでしょうか、フッ化物の啓蒙活動です。
一番時間を割いてお伝えしました。

4つ目に、手洗い用の消毒薬を毎年 練馬区 全ての学校に配布しております、と
いうことです。

新型コロナウイルス感染症は、感染防止対策の徹底に大きな影響を与えました。



5つ目に、学校保健委員会を、そろそろ再開しても、良いのではないか、という提言です。

私達のアンケート調査によりますと、学校保健委員会の開催は、このコロナ禍においては、ほとんどの学校で開催されませんでしたので、そろそろ開催されても良いのでは、と考えております。

6つ目に、残念なことに、虐待やネグレクトが増加傾向にあるのではないか、ということが判明したことです。

私達のアンケート調査によりますと、練馬区内の虐待及びネグレクトは、コロナ禍において、11.8%の増加傾向にあるようです。

コロナ禍での感染拡大により、学級閉鎖や臨時休校で、学校生活と家庭生活との環境バランスの時間的变化が要因と考えられます。

特に家庭的に複雑な環境も、大きな影響を及ぼすようで、児童・生徒へのメンタル・ヘルスケアはとても重要な役割を果たすと思います。

以上をお話させて頂きました。



会場



会場



会場



歯と口の健康推進事業における小・中学校への歯ブラシ贈呈

総務理事 浅見 律

平成30年から「歯と口の健康推進事業」の一環として小・中学校に歯ブラシの贈呈がされています。今年で6年目になりますが、贈呈校は歯ブラシを希望する学校の中から練馬区教育委員会で毎年6から7校選んで頂いています。基準は給食後の歯みがきに理解のある学校から選ばれていますので、学校歯科医の先生方は給食後の歯みがきを勧め、尚且つ教育委員会から問い合わせがあれば歯ブラシを希望するよう学校に働きかけてください。

令和3年度 合計 3,600本

学校名	贈呈数	学校名	贈呈数
下石神井小	880 本	南田中小	395 本
光が丘夏の雲小	560 本	北町西小	430 本
光が丘秋の香小	475 本	光が丘第三中	450 本
大泉桜学園小	410 本		

令和4年度 合計 2,020本

学校名	贈呈数	学校名	贈呈数
大泉北小	600 本	南ヶ丘小	360 本
大泉学園緑小	80 本 ※3年生のみ	北町中	340 本
橋戸小	290 本	上石神井中	350 本

令和5年度 合計 4,160本

学校名	贈呈数	学校名	贈呈数
開進第三小	740 本	北町中	370 本
練馬第三小	50 本	練馬中	520 本
石神井西小	490 本	貫井中	450 本
上石神井小	770 本	大泉西中	200 本
大泉北小	570 本		



対象：小学校低学年



対象：小学校高学年



対象：中学生



学校紹介

練馬区関町北小学校

学校歯科医 村上 順二



練馬区立関町北小学校は練馬区立石神井西小学校分校として現在地に移転して昭和34年4月1日に独立開校した今年開校65年、古い歴史を持つ学校です。

教育目標に「共に生きる」と「すべての児童を我が子同然」の理念を礎に掲げ、子供たちが仲良く学びあい、心と体を鍛えながらたくさんの夢や希望の現実に向かって努力していくことが出来るように支えられています。現在597名の生徒さんたちが在籍しております。昭和38年校歌制定、昭和48年に校旗が制定されました。

私が就任したのは平成元年6月1日、練馬区学校歯科医師会の先生方の中では就任期間3番目の古株として活動しております。学校検診の方法、環境もそれなりに遍歴がありました。当初、照明はカップ状反射板の電球スタンド、デンタルミラーは一人1本(コロナの影響で現在は2本)歯周疾患、顎関節症、歯列のチェックは細かくなりました。

バブル期周辺の畠廃業が軒並みマンション増加に繋がり、それに伴い元々多かった児童数は鰐登り、1000人近くまで増加、その為教室が確保できず、やむをえず校庭の端にプレハブ校舎を増設、凌いでいました。当然自慢の広い校庭は犠牲になりました。春の検診時は3人の先生と組んで共同で診ていきましたが、いつも午後までかかっていました。現在は少子化傾向で大分減少、ほっとしております。

令和30年3月31日、校舎等改築基本設計確定より5年、仮設校舎を経て昨年(令和5年)校庭整備完了を経て新校舎落成式を迎えることが出来ました。体育館、教室、屋上プール、冷暖房設備等、全て最新設備となりました。エレベーターが設置されたのは、驚きと時代の変化を感じました。定年にはまだですので新しくなった校舎にあやかって新たな気持ちでもう少し頑張って学校医の職務を全うする所存です。歴代の学校歯科医師会理事の先生方に感謝申し上げます。



学校紹介

練馬区立田柄小学校

学校歯科医 相田 孝彦



このよい土地で育つ子どもたちほど環境にめぐまれているものはほかにないと思
います。気温適応性の幅が広く、性格的にも多彩に発○し、世の人々に愛される有
益なジャスターぜおよびビタミン AC の供給源となる大根のごとく、特徴を大いに
発揮していただきたいと思い。
大根の花を図案化したのでございます。
(デザイン者・日野幸雄さんのコメント / 本校・開校 20 周年記念誌より)

田柄小は昭和 30 年 12 月に練馬小学校より分教場として発足しました。そして、昭和 32 年 4 月田柄小学校として独立しました。当時は木造校舎でした。

私は昭和 35 年に田柄小に入学し、41 年卒の卒業生です。当時の田柄は周囲にはまだ畠が多く、戦後の防空壕の跡、米軍キャンプのグランドハイツがありました。

現在の光が丘地区です。その頃の生徒数は多く、1 クラス 50 名以上で、教室の中は子供でいっぱいでした。その後田柄は住宅が次々に出来、農地が減って人口が増え、今の町並みになっていきました。その間に、田柄第二小学校、田柄第三小学校が出来て、現在の生徒数は 529 名で、学びやすい人数で安定しているように感じます。毎年の健診では伸び伸びと育つ子供たちの笑顔が見ることができます。

校歌は初代校長の高橋要助先生の作詞です。

開校したばかりの小学校への思い、そして生徒たちへの思いがこもった優しい詞と感じられます。令和 4 年には、開校 65 周年を迎ましたが、代々の先生方の子供たちへの優しい思いが脈々と受け継がれている様でした。

世界では戦争があり、多くの災害がある。こんな時代だからこそ、子供たちが健康で幸せになって欲しいと思います。これからも生徒たちが安心して学べる田柄小であって欲しいです。

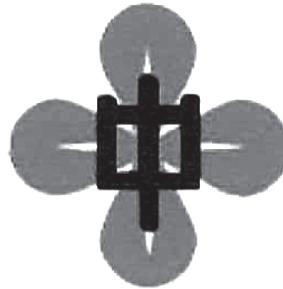
一 この庭 どの木も芽ぶいてる 大空めざし芽ぶいてる 平和なにわだ 田柄の子供の育つ庭	校 歌 初代校長 高橋要助先生
二 この窓 みんながのぞいでてる あかるいからがのぞいでてる 平和な窓だ 田柄の子供の育つ窓	
三 この空 ひかりにみちている あかるい心にみちている 平和な空だ 田柄の子供の育つ空	
わたしたちの小学校 田柄 わたしたちの小学校	



学校紹介

練馬区立豊渓中学校

学校歯科医 中村 直己



このよい土地で育つ子どもたちほど環境にめぐまれているものはほかにないと思
います。気温適応性の幅が広く、性格的にも多彩に発○し、世の人々に愛される有
益なジアスターぜおよびビタミン AC の供給源となる大根のごとく、特徴を大いに
発揮していただきたいと思い。
大根の花を図案化したのでございます。
(デザイン者・日野幸雄さんのコメント / 本校・開校 20 周年記念誌より)

練馬区立豊渓中学校の所在地は練馬区旭町 3 丁目で練馬区の北西部に位置す
る丘の上にあります。

開校は昭和 22(1947) 年 4 月、当時は生徒数は 1 年生から 3 年生までの 3 学年
で男女合わせて 79 名、先生方は 5 名だったそうです。

現在は開校 77 年となり、卒業生も 7,500 名を超える伝統校となっております。

「健康で心豊か、そしてよく学ぶ人」という教育目標を掲げ、先生方が保護者、地域
の皆様と協力して生徒一人一人のことを考え、きめ細かく生徒の成長のための指導、
支援を行っている学校だと思われます。

私は歯科健診の折などに年に数回学校をお訪ねし生徒の皆さんとお会いしてお
りますが、その際の礼儀正しい挨拶の様子や校内の雰囲気等から先生方が日々生
徒さん達の為に心のこもったご指導をなさっていることが感じられます。

在籍生徒数が 150 名に満たない規模の学校だからこそ出来るきめ細やかさで先
生方が生徒さんの学力の向上、豊かな心の育成、健康・体力の向上の達成のため
に寄り添っていらっしゃる姿を見て、こちらも学校歯科医として出来る限りのことを行
してまいりたいと思っております。

豊渓中学校 校歌

作詞 島来展也 作曲 金子三雄

一、見る朝日の光に映えて
はるかに仰ぐ富士の山
おゝ若い日の理想に燃えて
真理の道を開こうよ
豊渓中学 心の故郷よ

二、若芽伸びゆく兎月が丘に
友愛むすぶ学び舎の
おゝ若い日の心に育つ
築いた自治の花は咲く
豊渓中学 心の兄弟よ

三、今に巣立ちのこのひな鳥を
恩師のつばさにかゝえられ
おゝ若い日の三年の教え
自由の空に鳩は舞う
豊渓中学 心の父母よ

校歌



学校紹介

練馬区北町西小学校

学校歯科医　伊藤　伸介



新大宮バイパスが川越街道と交差すると現在も整備が続いている放射 38 号線となります。その道を平和台方面に進み、3 つ目の信号を左折してすぐの場所に位置する小学校が練馬区立北町西小学校、通称「北西小」になります。

1958 年(昭和 33 年)に開校し今年 66 周年を迎える北西小では、児童の数が右肩上がりで増加傾向にあり、令和 5 年 4 月現在で 436 名の児童が通学をしています。今年の春からは、6 年生以外の 1 年生から 5 年生までの学年で 3 クラス編成になります。

冒頭に記した通り、新しい道の整備のために、児童たちの登下校の安全が長い間心配されていましたが、現在ではだいぶ落ち着いた状況になってきているようです。新しく整備された道路とは反対方面か登下校する児童の中には、環状八号線を横断しなければいけない児童もあり、どちら側からも登下校時には危険が隣り合わせな感じは否めません。しかしながら、ひとたび校門をくぐると、広々とした校庭が児童たちを迎えてくれ、車の往来の音などの騒音も全くと言って良いほど気になりません。

このような環境にある北西小では学習・生活規律の指導として「北西あいさつスタンダード」ということを確立しています。歯科のみならず他科の検診においても、児童一人一人が自分の名前を言い「よろしくおねがいします」「ありがとうございました」のあいさつをきちんとるように教育・指導がなされていて、とても清々しい雰囲気で行われています。

令和 5 年度の北西小の目指す学校像は、

- 今日が楽しく明日が待たれる学校
- 子供の良さを見出し、可能性を伸ばす学校
- 子供の安全が確保され、安心して過ごせる学校
- 保護者、地域と連携し、内にも外にも開かれた、地域住民に信頼される学校
- 職員のもてる力を結集し、組織力を発揮できる学校

を掲げています。目指している学校となるように校長先生、養護の先生と連絡を密にして、これからも微力ながら学校歯科医として協力していきたいと思っています。



学校紹介

東京都立井草高等学校

副校長 金子 敬太
(担当 大野タロウ会員)



1. 円の中央に「井」の字を書いてある。その先が八方に伸びて外円と交わるところに八つの変化が出来ている。2. 「井」は井草高校の第一文字である。円に全体、宇宙、世界、国家、社会、平和、悠久等の意味を持たせた。円と「井」を結ぶ線で協力または全体と個の関係を示した。3. 誇り高く、力強く、誠の心で、清純に、協力して人類世界の理想を実現してゆく姿を象徴した。同時に校歌の「世界の前に我等あり、井草高校」をも表している。

東京都立井草高等学校は、昭和16年に東京府立第十八高等女学校として開校し、翌年に中野区鷺宮の仮校舎から現在地の地域名「井草」に移転してきたことから、東京府立井草高等女学校と名を改めました。さらに昭和23年の学制改革で定時制課程を併設する新制高等学校となり、昭和25年に現行名に改称し、同時に男女共学が始まりました。

「知性と感性を磨き自らの健康を培いながら向上進取の精神で自己実現を目指す」教育理念のもと、真理を探求し、問題を解決する態度や責任を重んじて自主的に行動できる生徒を育てます。さらに、国際交流プログラムや異文化交流を通して国際人の育成に力を入れてグローバルに活躍する人材を育成することが、本校のスクールミッションです。

本校は、学ぶ喜びや感動を原動力に、自らの進路を切り開くことができる生徒を育成する進学校です。自主・自律の精神を養うため、日々の学習はもとより、学校行事、生徒会活動、部活動等の教育活動を充実させ、様々な課題に対応できる能力と態度の育成を図っています。また、国際理解教育や奉仕活動等を通して人権について学び、生徒諸君が本校を卒立つとき、多様な人材となるよう、教職員が一丸となつて教育活動を行っています。

高校生活を通して、本校の生徒は様々なことに挑戦し、挑戦するからこそ経験する多くの失敗から、たくさんのこと学んでいます。様々なことに悩み、時には葛藤を抱えながら、自主・自律の精神をもって、自分らしく自由な心で生きるために日々挑戦しています。

教育目標

-
- ① 真理を探求し、問題を自ら解決する態度を培う。
 - ② 責任を重んじて自主的に行動し、勤労を尊ぶ健全な精神を育成する。
 - ③ 礼儀を正しくし、気品に富む明朗な生き方を学ばせる。
 - ④ 人権を尊重し、協力して社会の発展に貢献する人材を育成する。
-



学校歯科医に就任して

練馬区立開進第二小学校学校歯科医 牛山 将之

本年度より 西條先生の後任として学校歯科医に拝命いたしました、牛山将之です。

草柳会長からお声がけいただきましたが、学校歯科医は当然未経験ですし、想像もしていなかったので、お引き受けすることに、かなり戸惑いありましたが、地域に貢献できればとお引き受けさせていただきました。



5月6月の歯科健診では、3日に分けてやらせていただいたのにもかかわらず、1回目はペース配分に失敗し給食の時間に食い込んでしまい、養護教諭の先生にはご迷惑をおかけしてしまいました。

7月の学校保健委員会では「コロナ禍を経て健診結果はどう変化したか?」と事前質問があり、準備して臨みましたが、その後の談話時間には「食後に口腔細菌がカルシウムを放出するから、食後すぐの歯ブラシはやらない方がいいのか?」など聞いたことの無い様々な質問で洗礼を浴びました。

10月には3年生を対象に歯ブラシ指導を予定していて、養護の先生と打ち合わせをしながら資料を作成中です。

健診ではMDFは少ないようでしたが、歯垢が多くついている生徒が気になつたこと、将来叢生になりそうな発育空隙が無い生徒が多い印象でした。

何かできる事がないのかな?と考えさせられました。口腔保健指導の機会などでわかりやすく伝えられたらと思っています。

校長先生、養護教諭の先生ほか学校歯科医会の先輩方のご指導を頂きながら、取り組んでいきたいと思っています。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



学校歯科医に就任して

練馬区立北町小学校学校歯科医 高橋 正寛

この度、北町小学校の学校歯科医を担当することになりました
高橋正寛と申します。



お電話にて学校歯科医のお話をいただいた際、児童数の多い小学校を担当することに戸惑いを覚えました。一クラスの児童数も多く、予定時間内に健診できるか不安でありました。しかし、歯科健診当日は児童がとても礼儀正しく、協力的でスムーズに拝見できました。これも北町小学校の教諭及び養護教諭の先生方のご協力のおかげだと思います。無事時間内で健診を終えることができ安心致しました。健診を行う中で、児童一人一人の口腔内の状況が非常に良く、改めて保護者の方々のお子さんへの歯の意識の高さを感じました。

学校保健委員会を通して、先生方はもちろんのこと保護者の方々、学校医、薬剤師が、健やかに児童が学校生活を送れるよう尽力しているのを感じました。また、今年度就任したばかりにも関わらず学校保健委員会での講演依頼を受けました。そこでは、不正咬合に関してお話を致しました。近年は、う蝕による治療で通院されるお子さんよりう蝕の予防・不正咬合での通院が増えました。そのため、講演をした際は保護者の関心も非常に高く感じました。

今後、学校歯科医として、う蝕等の口腔疾患の早期発見・早期治療や予防に努めたいと思っております。まだまだ至らない点も多々あると存じますが、諸先輩方のご指導・ご鞭撻を宜しくお願ひいたします。



学校歯科医に就任して

東京都立第四商業高等学校学校歯科医 金藤 哲也

本年度より東京都立第四商業高等学校の学校歯科医を務めることになりました、かねとう歯科の金藤です。



当院は都立第四商業高等学校のすぐ近くにあります。東京都立第四商業高校は歯と口の健康づくり推進事業のモデル校に指定されており本年度の健診では当院の衛生士と一緒に行かせて頂きました。まだまだ治療が必要な歯や磨き残しが多いといった現状があります。

高校生になると仕上げ磨きはしなくなり自分自身でしっかりと口腔内管理をする時期になると思います。歯周病の有無は思春期の生活習慣が重要で、思春期を迎えると歯周病や虫歯のリスクが高まってしまいます。身体、生活環境、心の変化によって生活管理が御座なりになることが一つの要因であると考えています。歯科医院への定期的な受診も中学生を過ぎるとすくなくなっている印象があり、その時期にしっかりとブラッシングや定期健診の重要性、歯の大切さを啓蒙していく必要性を実感しました。

また本年7月には運動部の生徒さん向けに歯と口の外傷予防の講習会で話す機会を頂き、緊急時の対応や予防策について説明させていただきました。

自分の歯と口の健康を意識して自分の体の健康、口の役割、食べることの大切さを理解してもらえたらしいなと思います。

学校歯科医として貢献できるよう努めていきたいと思っております。まだまだ至らぬ点が多くあると思いますがご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願ひ致します。

執行部・学術委員会・ホームページ委員会

【執行部】



後列左より浅見理事、西村理事、樋口理事、西専務理事、羅理事
前列左より名古谷監事、山室顧問、穂坂副会長、草柳会長、泊副会長、渡辺監事

【学術委員会】



左より大塩委員、生田副委員長、大川内委員長、瓦井委員、
佐藤委員(モニター)

編集後記

本会(練馬区歯科医師会)の会報委員を務めて以来十数年ぶりの広報担当でした。原稿を寄せて頂いた先生方には感謝です。本会のすずしろと違うのは会員の人数は少ないので当然ですが、草柳会長の力をお借りしながらも殆どの作業を1人でしなければ完成できることでしょうか。佐藤和則前広報担当理事にも頭が下がります。

今号は広告に日本歯科商社様にお付き合いを頂けました。新入会員の時に練馬区学校歯科医会に頂いた、健診時に使用できるライトを重宝しております。今は同社のコードレスの充電式バッテリーの製品を購入して診療に使っております、お勧めです。

羅 均

令和5年度、コロナ禍の学校歯科医会の年間学校歯科保健活動は新生活様式の中で春の歯科健康診断から秋の就学時健康診断まで順調に実施することができました。第87回全国学校歯科保健研究大会等多くの方々の参加が見られ、コロナ禍の緊張も感じられなおり且つ研究発表等もコロナ禍関連事項も多々含まれ開催されました。来年度も同様に新生活様式の下に全ての学校保健活動が実施されるかと思います。

本年度の練馬区学校保健大会は、長年のメッセージである「給食後の歯みがきとフッ化物洗口」を研究発表を行い、来年度もスローガンに教育委員会・学校長会等と協力しながら学校歯科保健活動を実施してゆきたいと考えております。

草 柳 英 二

練馬区学校歯科医会ホームページ
<http://www.nerigakushi.tokyo>

発行日 令和6年3月12日
発行 練馬区学校歯科医会
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6丁目5-13
TEL 3557-0045㈹ FAX 3557-3553
発行人 草柳英二
担当理事 羅均
印刷所 有限会社 かどや印刷
〒177-0042 東京都練馬区南田中1-20-13
TEL 3997-0370 FAX 3995-0594

歯科専用口腔内カメラ

クリアファイバープロVI



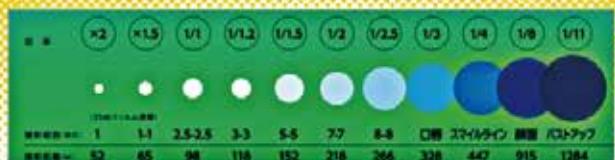
デンタルグループ 製造販売元



株式会社日本歯科商社

東京本社 〒130-0011 東京都墨田区石原 1-19-5 TEL (03) 3625-3111
大阪支店 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-3-9 TEL (06) 6643-0085

規格撮影対応
オートフォーカス撮影も可能な万能カメラ



5枚法・8枚法から顔面・全身撮影まで

光を効率よく、
かつ均一に伝達できる
光ファイバー

規格撮影ができる
ミラーレス一眼カメラ



価格：570,000円
価格は希望小売価格です。（税込価格は含まれておりません）

製品についての詳細は弊社ホームページをご覧ください
<http://www.dentalsupply.co.jp/>



歯科医院専売

DOLPHIN歯ブラシ

ドルフィン歯ブラシ

コンパクトヘッドタイプ
フック除去に優れたテーパード加工



オリジナル歯ブラシとして
名入れする事が可能です



規格：ソフト (S)・ミディアム (M)
カラー：(S) パステルブルー・パステルイエロー
パステルグリーン・パステルピンク
(M) ブルー・イエロー・グリーン・ピンク
包装：100 本入 (ASS)、25 本入 (単色)

DOLPHIN歯ブラシDUO

ドルフィン歯ブラシデュオ

極細毛とラウンド毛の二段植毛
歯肉の奥まで優しくケア出来ます。



カラー：ブルー・イエロー・グリーン・ピンク
包装：12 本入 (ASS・単色)

DOLPHIN義歯ブラシ

スタンド付

ご家庭で使いやすいスタンド付



やわらかめ



規格：スタンド…3色（イエロー、レッド、ブルー）
材質…シリコンゴム
包装：6 本入 (ASS・単色)

規格：柄…ポリプロピレン製
毛…ナイロン
耐熱温度…80°C

かため

DOLPHIN義歯ブラシ

医院内でのご使用に最適



包装：6 本入

総合歯科医療商社

株式会社 **コサカ**

東京都練馬区豊玉中2-18-14 TEL:03-3557-4111 FAX:03-3557-4116

<https://www.kosaka.co.jp> E-mail:dental@kosaka.co.jp